

授業概要

保育士が担う役割として、子どもに対する直接的な保育はもちろんのこと、保護者支援、家庭支援がその重要性を増している。さらにその支援の対象は保育所に入所する子どもの保護者（働く親）のみならず、地域で子育て困難に直面している専業主婦をも含んでいる。保育士は社会的な子育て支援の担い手として「専門性を生かしたかわりや支援」が期待されているのである。そうした要請に応えるためには、家族、家庭、親子関係について深く理解し、多角的な観点から考える態度を身につける必要がある。講義ではまず家族の役割や家庭の機能が時代とともに大きく変化していることを学ぶ。そのうえで、現代の家族が直面する諸問題、特に子育てをめぐる困難について、その背景や要因を探っていく。家庭支援の意義と役割について理解するとともに、その支援を現場で担うための実践的な力を身につけることを目的とする。

授業計画

第 1 回	家族って何だろう～家族の定義、家族の見方の再検討
第 2 回	近代家族の誕生～家族規範の成立と変遷
第 3 回	企業中心社会と家族～戦後日本の家族のあゆみ
第 4 回	専門職として「家族」を支えるために～「家族福祉」という観点
第 5 回	現代の母親をとりまく状況～少子化時代の「孤育て」
第 6 回	母性神話と三歳児神話～子育て規範の変遷
第 7 回	育児不安・育児ストレス～育児不安研究から学ぶ
第 8 回	前半のまとめ
第 9 回	子ども虐待①～児童虐待防止法について学ぶ
第 10 回	子ども虐待②～母親支援という観点
第 11 回	子ども虐待③～ドメスティック・バイオレンスとの関係
第 12 回	子育て支援の政策動向
第 13 回	子どもの貧困～社会的支援の必要性
第 14 回	多様な性を生きる子どもとその家族の支援～ジェンダーの視点から
第 15 回	家族を支えるさまざまなネットワーク
第 16 回	定期試験

到達目標

新しい家族への考え方に触れることで、家族についての視野を広げる。
家庭支援の意義と役割について理解する。
「偏見」や「思い込み」にとらわれることなく、個々の家族問題へ向き合う態度を身につける。

履修上の注意

ノートは積極的にとることを求める。また授業時に課題を与え、それにこたえてもらう、ミニ・レポートの提出を求めることがある。
遅刻は交通機関等、特別な事情がない限り認めない。

予習復習

予習については、テキストを読んでもらうよう指示するので、それを実践すること。
復習については、ノートのまとめ、作業課題など、その都度指示するので、学習に役立てること。

評価方法

定期試験試験（80%）と、授業時に提出を求めるミニ・レポート（20%）で判断する。

テキスト

- ・教科書名：『実践 家庭支援論【第3版】』
- ・著者名：松本 園子・永田 陽子・福川 須美・堀口 美智子
- ・出版社名：ななみ書房
- ・出版年：2017年